

2027年度

東北大学病院
基礎研究医プログラム



東北大学病院卒後研修センター

I. 東北大学病院基礎研究医プログラムの概要

1. プログラムの目的

医師臨床研修の役割は、医師としての基盤を形成するこの時期に、将来の専門性にとらわれず、患者を全人的に診るための臨床能力を身につけることである。このプログラムは、基礎医学に意欲があり、東北大学大学院医学系研究科の基礎医学系分野に入学する医師を対象に、臨床研修と基礎医学を両立するための基礎研究医養成・研修コースである。わが国で定められた卒後臨床研修の基準を満たし、かつ一人一人のニーズにマッチした臨床研修および基礎研究を実践することを目的とする。

2. プログラムの特色

当プログラムは本院を基幹型臨床研修病院としたローテート研修プログラムである。医師としての最初の研修を、東北大学大学院医学系研究科に入学し、基礎医学系分野に所属して研究を行いながら、高度な医療を担う本院と長年連携して研修を行ってきた地域の関連病院である協力病院等で臨床研修を行うプログラムである。卒後臨床研修を大学院教育（研究者養成）に至る過程の一部と位置づけて実施する。

3. 臨床研修の目標

別紙「東北大学病院における臨床研修の基本理念・目標」を参照のこと。

4. プログラム責任者

プログラム責任者：

伊藤 明宏（泌尿器科学 教授／卒後研修センター センター長）

5. 研修スケジュール

- ・必修科【内科24週（6か月）以上（原則1年目）、外科4週（1か月）以上、小児科4週（1か月）以上、産婦人科4週（1か月）以上、精神科4週（1か月）以上、救急部門12週（3か月）以上、地域医療4週（1か月）以上（原則2年目）、一般外来診療4週（1か月）以上（原則2年目）、在宅医療研修1日以上、基礎研究16－24週（4－6か月）（2年目）】
- ・月単位で研修を行う。
- ・研修開始後12週（3か月）は本院で研修を行う。
- ・本院研修は最低52週（1年）とし、地域医療研修最大8週（2か月）を含める。協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設研修は合わせて最大52週（1年）とするが、臨床研修協力施設での研修は8週（2か月）までとする。
- ・一般外来研修は、本院・協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設で、一般外来研修可能な診療科及び地域医療の研修中に行う。
- ・プログラム開始時、東北大学大学院医学系研究科への入学を必須とし、所属する基礎医学系分野の教室を決定し、オリエンテーションを行う。
- ・基礎研究は、2年目に16－24週（4－6か月）の期間とし、基礎医学系分野の教室で研究を行う。
- ・基礎研究を開始する前に、臨床研修の到達目標の到達度評価を行う。

- ・一定の条件の下、1年目に2年目の研修スケジュールの変更を申請できる。
- ・なお、到達目標に未到達がある場合には、到達目標達成に必要な診療科を自由選択期間に割り当てることがある。

(臨床研修を行う分野とスケジュール例)

	週	1-4 週	5-8 週	9-12 週	13-16 週	17-20 週	21-24 週	25-28 週	29-32 週	33-36 週	37-40 週	41-44 週	45-48 週	49-52 週	
1 年 目	研修分野	内科必修 24週(6か月)						救急必修 8週(2か月)		必修科 (外科・小児科・産婦人科・精神科) 16週(4か月)					
	研修先	<本院・内科研修可能な協力病院・協力施設>						<本院・協力病院>		<本院・協力病院・協力施設>					
2 年 目	研修分野	救急必修 4週(1か月)	地域医療・ 一般外来 4-8週(1-2か月)		自由選択 12-24週(3-6か月)			基礎研究 16-24週(4-6か月)							
	研修先	<本院・ 協力病院>	<協力病院・ 協力施設>		<本院・協力病院・協力施設>			<基礎医学系分野>							

※研修日数不足の必修科が生じた場合、その診療科は自由選択期間に割り当てることとする。

6. 研修の指導体制・評価方法等

(1) 指導体制

各診療科において、指導医による直接指導のほか、いわゆる「屋根瓦方式」で指導医の指導監督の下、上級医が指導する場合もある。基礎研究においては、所属している基礎医学系分野の教室にて、教員が指導を行う。

(2) 評価方法

研修の評価に当たっては PG-EPOC（オンライン臨床教育評価システム）を利用する。研修医は各診療科の研修終了時、PG-EPOC に自己評価を入力し、指導医に評価を依頼する。併せてメディカルスタッフにも評価を依頼する。これらの評価資料を基に、研修管理委員会が最終評価を行い、研修目標に達していると判断された研修医の研修修了を認める。

また、臨床研修後、4年以内を目途に、作成した基礎医学の論文（投稿済みのもの）を、研修管理委員会に提出すること。

(3) 病歴要約について

本院では、「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」の別添「臨床研修の到達目標、方略及び評価」に従い、経験すべき症候29症候、経験すべき疾病・病態26疾病・病態、合わせて55症例の経験について病歴要約等により確認を行う。

7. 修了者のキャリアパス

- ・ポスドク研究者（国内・海外）
- ・大学教員
- ・民間企業研究者
- ・臨床医、臨床研究医・・・など

8. 研修医の募集及び採用

(1) 募集定員

1名（マッチング外で公募する）

(2) 研修期間

2027年4月1日～2029年3月31日

(3) 応募資格

東北大学病院で臨床研修、ならびに東北大学大学院医学系研究科で基礎医学研究を行うことを希望し、次のいずれかに該当する者

(A) 令和8年度医師免許取得見込み者

(B) 医師免許取得者で、臨床研修が未修了かつ他のプログラムを研修中（中断を含む）ではない者

(4) 応募要領

本院卒後研修センターへ以下の書類を提出する。

詳細は、卒後研修センターのホームページを参照のこと。

- ・東北大学病院臨床研修申請書
- ・履歴書（写真貼付）
- ・自己PR表
- ・医学部の卒業（見込）証明書もしくは卒業証書（写）
- ・共用試験（CBT）成績表の写し
- ・成績証明書
- ・TOEIC®、TOEFL® TEST、IELTS、Duolingo English Test いずれかのスコアシートの写し

(5) 選考試験

面接試験と適性検査を行う。

詳細は、卒後研修センターのホームページを参照のこと。

(6) 問合せ・資料請求先

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号

東北大学病院卒後研修センター（総務課臨床研修係）

TEL：022-717-7765 / FAX：022-717-7143

9. 研修医の処遇

身分	准職員 医員（研修医）（非常勤）
給与・手当	基本給：日額 9,075 円 諸手当：研修医手当（100,000 円、ただし救急科ローテート中は 130,000 円）、超過勤務手当、特殊勤務手当、通勤手当等 賞与：無 ※協力病院に連続して 3 か月以上在籍する場合は、協力病院での採用となり、その規程に従います。
勤務時間・休日	勤務時間：8 時 30 分～17 時 15 分（休憩 12 時 00 分～13 時 00 分） 休日：土日祝日及び年末年始（12 月 29 日～翌年 1 月 3 日） ※勤務時間外、休日に業務を命ずることがあります。 ※変形労働制を適用し、宿日直を命ずる場合には、勤務パターンに応じて所定労働時間に変更が生じます。 ※高度救命救急センターをローテート中は土日祝日の勤務があり、その日数分、平日が休日となります（1 月当たりの休日数は暦の日数を確保）。所定労働時間は 8 時 30 分～17 時 15 分（休憩 12 時 00 分～13 時 00 分）で変更ありません。
休暇	年次有給休暇：採用から 6 か月間 8 割以上出勤すると 10 日、その後 1 年間 8 割以上出勤すると 11 日付与（繰越し可）。規定どおり出勤した場合、付与日は 10 月 1 日となります。 特別休暇：リフレッシュ休暇（年内に 3 日付与・有給）、忌引休暇（有給）、産前・産後休暇（有給）、私傷病休暇（有給）等
当直	月 5 回程度（宿直 4 回、日直 1 回）
アルバイト	アルバイトを含め副業は禁止
研修医用宿舎	有：平成 26 年 3 月竣工、免震構造、単身者用 60 室、各部屋 1K、ユニットバス・トイレ・キッチン付き、インターネット利用可能、使用料 10,000 円／月（光熱水料別）
研修医室	有：机、ロッカー、院内 PHS の貸出しあり
社会保険	公的医療保険：国家公務員共済（短期） 公的年金保険：厚生年金保険
労働保険	労働者災害補償保険法の適用：有 雇用保険：有
健康管理	健康診断：年 1 回 その他：インフルエンザ・B 型肝炎ワクチン等接種、電離放射線健康診断、産業医面談等
医師賠償責任保険	病院において加入：有 個人加入：必須
外部の研修活動	学会、研究会等への参加：可 参加費用の支給：原則として費用は自己負担、ただし発表者の場合は要相談

病院職員用保育所	有：開所時間 7 時 15 分～18 時 15 分（延長は 22 時 00 分まで） 病児保育：無 夜間保育：有（月・金の 17 時 00 分～翌 9 時 30 分）
保育補助	ベビーシッター・一時保育等利用時の補助：有
体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所	休憩場所：有（女性休憩室） 授乳スペース：有
その他育児関連施設・取組	院内に軽症病児・病後児保育室あり：月曜日および祝祭日明けの開室日 9 時 00 分～17 時 45 分、火曜日～金曜日 8 時 00 分～17 時 45 分（祝祭日および年末年始の休日を除く）
ライフイベントの相談窓口	有（職員相談室）：専任の相談員あり
各種ハラスメントの相談窓口	有（ハラスメント等学内相談窓口）：病院内相談員あり

II. 研修分野ごとの研修期間、病院又は施設

1. 必修科

(1) 内科：24週（6か月）以上

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	協力型臨床研修病院
独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院	協力型臨床研修病院
仙台市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院	協力型臨床研修病院
東北医科薬科大学病院	協力型臨床研修病院
大崎市民病院	協力型臨床研修病院
社会医療法人将道会 総合南東北病院	協力型臨床研修病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院	協力型臨床研修病院
医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院	協力型臨床研修病院
一般財団法人厚生会 仙台厚生病院	協力型臨床研修病院
石巻市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院	協力型臨床研修病院
宮城県立がんセンター	協力型臨床研修病院
一般財団法人広南会 広南病院	協力型臨床研修病院
東北公済病院	協力型臨床研修病院
栗原市立栗原中央病院	協力型臨床研修病院
登米市立登米市民病院	協力型臨床研修病院
気仙沼市立病院附属本吉医院	臨床研修協力施設

(2) 外科：4週（1か月）以上

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	協力型臨床研修病院
独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院	協力型臨床研修病院
仙台市立病院	協力型臨床研修病院
東北医科薬科大学病院	協力型臨床研修病院
大崎市民病院	協力型臨床研修病院
社会医療法人将道会 総合南東北病院	協力型臨床研修病院
宮城県立こども病院	協力型臨床研修病院
医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院	協力型臨床研修病院
一般財団法人厚生会 仙台厚生病院	協力型臨床研修病院
石巻市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院	協力型臨床研修病院

名 称	種 別
宮城県立がんセンター	協力型臨床研修病院
一般財団法人広南会 広南病院	協力型臨床研修病院
東北公済病院	協力型臨床研修病院
栗原市立栗原中央病院	協力型臨床研修病院
登米市立登米市民病院	協力型臨床研修病院

(3) 小児科：4週（1か月）以上

名 称	種 別
東北大学病院（周産期母子医療センターを除く）（注）	基幹型臨床研修病院
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	協力型臨床研修病院
独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院	協力型臨床研修病院
仙台市立病院	協力型臨床研修病院
大崎市民病院	協力型臨床研修病院
東北公済病院	協力型臨床研修病院

（注）周産期母子医療センター（小児科・新生児グループ）での研修は自由選択科とする。

(4) 産婦人科（産科・婦人科）：4週（1か月）以上

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	協力型臨床研修病院
仙台市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院	協力型臨床研修病院
大崎市民病院	協力型臨床研修病院
地方独立行政法人 宮城県立こども病院	協力型臨床研修病院

(5) 精神科：4週（1か月）以上

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
仙台市立病院	協力型臨床研修病院
一般財団法人東北精神保健会 青葉病院	臨床研修協力施設
東北会病院	協力型臨床研修病院
いずみの杜診療所	臨床研修協力施設

(6) 救急部門（救急科）：12週（3か月）以上

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
東北医科薬科大学病院	協力型臨床研修病院
大崎市民病院	協力型臨床研修病院

(7) 地域医療：4週（1か月）以上

名 称	種 別
石巻市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人宮城厚生協会 長町病院	協力型臨床研修病院
登米市立登米市民病院	協力型臨床研修病院
仙台往診クリニック	臨床研修協力施設
涌谷町町民医療福祉センター	臨床研修協力施設
栗原市立若柳病院	臨床研修協力施設
いずみの杜診療所	臨床研修協力施設
仙台市健康福祉局保健衛生部 仙台市生出診療所	臨床研修協力施設
気仙沼市立病院附属本吉医院	臨床研修協力施設
イムス明理会仙台総合病院	臨床研修協力施設
土橋内科医院	臨床研修協力施設
南三陸病院	臨床研修協力施設
岡部医院仙台	臨床研修協力施設
令和クリニック	臨床研修協力施設
やまと在宅診療所登米	臨床研修協力施設
やまと在宅診療所大崎	臨床研修協力施設
あんどろクリニック	臨床研修協力施設
あいのもりクリニック	臨床研修協力施設
じょうなんファミリークリニック	臨床研修協力施設

(8) 一般外来診療：4週（1か月）以上

以下の病院・施設で、一般外来研修可能な診療科及び地域医療の研修中に実施

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
東北医科薬科大学病院	協力型臨床研修病院
社会医療法人将道会 総合南東北病院	協力型臨床研修病院
医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院	協力型臨床研修病院
石巻市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人宮城厚生協会 長町病院	協力型臨床研修病院
栗原市立栗原中央病院	協力型臨床研修病院
登米市立登米市民病院	協力型臨床研修病院
涌谷町町民医療福祉センター	臨床研修協力施設
栗原市立若柳病院	臨床研修協力施設
仙台市健康福祉局保健衛生部 仙台市生出診療所	臨床研修協力施設
気仙沼市立病院附属本吉医院	臨床研修協力施設
イムス明理会仙台総合病院	臨床研修協力施設
土橋内科医院	臨床研修協力施設

名 称	種 別
南三陸病院	臨床研修協力施設
あんどろクリニック	臨床研修協力施設
あいのもりクリニック	臨床研修協力施設
じょうなんファミリークリニック	臨床研修協力施設

(9) 基礎研究：16-24 週（4-6 か月）

名 称	種 別
東北大学病院（東北大学大学院医学系研究科）	基幹型臨床研修病院

※受入可能な基礎医学系分野は「Ⅲ. 基礎医学系分野」を参照

2. 自由選択科

名 称	種 別
東北大学病院	基幹型臨床研修病院
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	協力型臨床研修病院
独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院	協力型臨床研修病院
仙台市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院	協力型臨床研修病院
東北医科薬科大学病院	協力型臨床研修病院
大崎市民病院	協力型臨床研修病院
社会医療法人将道会 総合南東北病院	協力型臨床研修病院
地方独立行政法人 宮城県立こども病院	協力型臨床研修病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院	協力型臨床研修病院
医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院	協力型臨床研修病院
一般財団法人厚生会 仙台厚生病院	協力型臨床研修病院
石巻市立病院	協力型臨床研修病院
公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院	協力型臨床研修病院
宮城県立がんセンター	協力型臨床研修病院
公益財団法人宮城厚生協会 長町病院	協力型臨床研修病院
一般財団法人広南会 広南病院	協力型臨床研修病院
一般財団法人東北精神保健会 青葉病院	臨床研修協力施設
東北公済病院	協力型臨床研修病院
栗原市立栗原中央病院	協力型臨床研修病院
登米市立登米市民病院	協力型臨床研修病院
東北会病院	協力型臨床研修病院
仙台往診クリニック	臨床研修協力施設
涌谷町町民医療福祉センター	臨床研修協力施設
栗原市立若柳病院	臨床研修協力施設
いずみの杜診療所	臨床研修協力施設

名 称	種 別
仙台市健康福祉局保健衛生部 仙台市生出診療所	臨床研修協力施設
気仙沼市立病院附属本吉医院	臨床研修協力施設
イムス明理会仙台総合病院	臨床研修協力施設
土橋内科医院	臨床研修協力施設
南三陸病院	臨床研修協力施設
岡部医院仙台	臨床研修協力施設
令和クリニック	臨床研修協力施設
やまと在宅診療所登米	臨床研修協力施設
やまと在宅診療所大崎	臨床研修協力施設
あんどうクリニック	臨床研修協力施設
あいのもりクリニック	臨床研修協力施設
じょうなんファミリークリニック	臨床研修協力施設

Ⅲ. 基礎医学系分野

1. 放射線生物学分野
2. 器官解剖学分野
3. 細胞組織学分野
4. 分子代謝生理学分野
5. 医化学分野
6. 幹細胞医学分野
7. 生体システム生理学分野
8. 抗体創薬学分野
9. 病態病理学分野
10. 病理診断学分野
11. 微生物学分野
12. 免疫学分野
13. 公衆衛生学分野
14. 医学情報学分野
15. 医療管理学分野
16. 環境医学分野
17. 法医学分野
18. 医療倫理学分野
19. 分子病態治療学分野
20. 人工知能医科学分野
21. 分子疫学分野
22. 発達環境医学分野
23. 母児医科学分野
24. 運動学分野
25. 分子腫瘍学研究分野
26. 腫瘍生物学分野
27. 人間脳科学研究分野
28. サイクロトロン核医学分野
29. 病態液性制御学分野
30. 災害公衆衛生学分野
31. 画像統計学分野
32. 地域口腔健康科学分野
33. 個別化予防・疫学分野
34. ゲノム予防医学分野
35. バイオマーカー探索分野
36. 遺伝疫学研究支援分野
37. 医用イメージング研究分野

基礎医学系分野の研究内容及び方法

1. 放射線生物学分野

- ・ 癌細胞を当該分野で開発された方法により脱分化させることにより、癌幹細胞の生物学的意義と化学療法抵抗性・放射線治療抵抗性のメカニズムに関する解明研究に取り組む。
- ・ 本人の希望がある場合には当該分野で開発された方法により樹立された新しい多能性幹細胞の研究に取り組む。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/1>

2. 器官解剖学分野

- ・ 大脳皮質抑制性神経細胞と精神疾患の関連について研究に取り組む。
- ・ 遺伝子改変マウスおよび神経系初代培養細胞を用いた研究に取り組む。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/2>

3. 細胞組織学分野

- ・ 生体内多能性幹細胞 Muse 細胞の採取方法、培養方法等基礎的テクニックを習得する。
- ・ 各種疾患モデルを作成し、Muse 細胞の有効性・安全性を多角的に検証する。
- ・ これらのデータを元に Muse 細胞の傷害部位への特異的遊走能、組織修復過程における分化能、免疫抑制効果などについて仮説を立て次の実験計画を策定する。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/3>

4. 分子代謝生理学分野

- ・ 【テーマ 1】生活習慣病発症に関与する神経回路の機能シフトとエピゲノム機構の解明
- ・ 【テーマ 2】生活習慣病予防に働く早期ライフステージの生活環境記憶の解明
- ・ 肥満・過食の原因となる神経回路の機能シフトをヒストン脱メチル化酵素の異常マウスを用いて解析する。一細胞の RNA-seq 解析、クロマチン免疫沈降法 (ChIP-seq)、オプトジェネティクスを基盤に行う。
- ・ 寒冷刺激を与えた雄マウスの次世代の仔マウスは熱産生が亢進し肥満を予防する可能性が報告されている (生活環境記憶)。そこで父性寒冷環境刺激マウスモデルで寒冷記憶する細胞、エピゲノム酵素を探索するため、一細胞遺伝子発現解析法、一細胞種の遺伝子発現とエピゲノムの同時解析技術 (Nuclear tagging and Translating Ribosome Affinity Purification, NuTRAP) を樹立する。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/4>

5. 医化学分野

- ・ 生体のストレス応答と制御因子の分子機構を、転写制御と代謝制御の視点から解明し、炎症やがんなどの加齢関連疾患の理解を目指す。
 - 1) 難治がんの克服に向けて、腫瘍組織における細胞間コミュニケーションを調べる
 - 2) 超硫黄代謝の全貌解明を通して、新たな生体防御メカニズムを探索する。
- ・ <https://sites.google.com/view/motohashi-lab/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

6. 幹細胞医学分野

- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/241>

7. 生体システム生理学分野

- ・ラット、マウスを用いた脳活動計測による脳機能評価（行動異常等）
- ・サルを用いた多点計測による脳機能評価（行動、認知機能）
- ・光遺伝学を用いた脳機能操作実験
- ・コンピュータを用いた脳機能のシミュレーション
- ・遺伝子組み換え動物（GABA 合成系その他）を用いた、興奮—抑制の操作による脳機能の変容
- ・研究テーマは相談して決める。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/8>

8. 抗体創薬学分野

- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/9>

9. 病態病理学分野

- ・難治癌のゲノム異常による病態解明に取り組む。
- ・ゲノム異常による癌発生進展メカニズムを *in vitro*, *in vivo* モデルで解析する。
- ・明らかにした癌発生進展メカニズムに対処しうる診断治療法を開発する。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/11>

10. 病理診断学分野

- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/12>

11. 微生物学分野

- ・【疫学】
病原性ウイルスの感染及び感染症の流行・伝播動態、感染・重症化リスク、診断検査特異性等について統計ソフト（R、Stata 等）を用いて疫学統計解析、地理情報解析を行う。
- ・【ウイルス診断・遺伝子解析】
ウイルス細胞培養、PCR法、血清学的検査等によるウイルス診断の改良、開発、ウイルス遺伝子配列解析によるウイルス多様性、変異、進化過程に関する解析。
※研究対象としている主なウイルス：SARS CoV-2 を含む呼吸器感染症の原因となるウイルス（RS ウイルス、インフルエンザウイルス、エンテロウイルス、ライノウイルス、メタニューモウイルスなど）、下痢症の原因となるウイルス（ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルスなど）、狂犬病ウイルス、デングウイルス、チクングニヤウイルスなど。
- ・【フィールド研究活動】
海外のフィールド研究サイトに短期留学し、国際共同研究に従事する（海外渡航が可能な状況において）。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/13>

12. 免疫学分野

- ・記憶 T 細胞と考えられてきた T 細胞集団の 50%以上が記憶 T 細胞とは異なる性質を有する新たな T 細胞亜集団であることが証明され、Memory-phenotype cell（MP 細胞）と名付けられた。発見者の一人である河部剛史准教授の指導のもので、MP 細胞の分化機構と生理的な役割の解明を行う。
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/14>

13. **公衆衛生学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/54>
14. **医学情報学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/125>
15. **医療管理学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/58>
16. **環境医学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/59>
17. **法医学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/60>
18. **医療倫理学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/61>
19. **分子病態治療学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/64>
20. **人工知能医科学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/68>
21. **分子疫学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/101>
22. **発達環境医学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/102>
23. **母児医科学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/128>
24. **運動学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/47>
25. **分子腫瘍学研究分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/111>
26. **腫瘍生物学分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/112>
27. **人間脳科学研究分野**
 - <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/115>

28. サイクロトロン核医学分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/126>

29. 病態液性制御学分野

- ・ ミトコンドリア病の病態解明と新規治療法の開発
- ・ 腸内細菌叢と腎疾患、他疾患との臓器連関の解明
- ・ 疾患 iPS 細胞を用いたミトコンドリア病、腎疾患、血管疾患の病態解析と治療法の開発
- ・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/118>

30. 災害公衆衛生学分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/124>

31. 画像統計学分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/192>

32. 地域口腔健康科学分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/129>

33. 個別化予防・疫学分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/130>

34. ゲノム予防医学分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/165>

35. バイオマーカー探索分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/148>

36. 遺伝疫学研究支援分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/132>

37. 医用イメージング研究分野

・ <https://www.med.tohoku.ac.jp/laboratory/view/186>

東北大学病院における臨床研修の基本理念・目標

I 臨床研修の基本理念

臨床研修は、「医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。」とされており（医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令）、これを東北大学病院臨床研修プログラムの基本理念とする。

- 「医師としての人格」には、知性を磨き、徳を身につけ、優しさと献身性を示し、患者や医療スタッフから信頼される医師としての理想像が含意されている。
- 「社会的役割」には、眼前の患者に最大限貢献することは当然として、人の集団、社会と医療の体制、公衆衛生へも注意を向けるよう喚起を促している。
- 「基本的な診療能力」とは、将来携わる専門診療の種類にかかわらず、全ての医師に共通して求められる幅広い診療能力をいう。

II 臨床研修の到達目標

初期臨床研修における到達目標は、**医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）、資質・能力、基本的診療業務**、の3つの領域から構成される。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- 1) 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

- 2) 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- 3) 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- 4) 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- 5) 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- 1) 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- 2) 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- 3) 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- 1) 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- 2) 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- 3) 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- 1) 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- 2) 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- 3) 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- 1) 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- 2) チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- 1) 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- 2) 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- 3) 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- 4) 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域

社会と国際社会に貢献する。

- 1) 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- 2) 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- 3) 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- 4) 予防医療・保健・健康増進に努める。
- 5) 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- 6) 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- 1) 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- 2) 科学的研究方法を理解し、活用する。
- 3) 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- 1) 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- 3) 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。